

福島県

中学教育

発行所
 福島県中学校教育研究会
 責任者 高澤正男
 印刷所
 (株) 第一印刷
 福島市岡島字古屋館1番2
 TEL 024-536-3232

- あいさつ……………福島県中学校教育研究会長 高澤 正男 …… (1)
- 令和 5 年度 福島県中学校教育研究会 福島県教育委員会教育長祝辞 …… 福島県教育委員会教育長 大沼 博文 …… (2)
- 総会に臨んで……………副会長 小川 茂樹 …… (2)
- 令和 5 年度 本会予算 …… (3)
- 令和 5 年度 運営方針及び事業計画 …… (4)
- 令和 5 年度 基本主題設定の趣旨と研究の進め方 …… (5)
- 各支部の研究の方向性について…………… (6)~(8)
- 令和 5 年度 中学校教育研究協議会いわき大会をひかえて …… いわき大会実行委員長 松本 仁志 …… (9)
- 令和 6 年度からの県大会開催について…………… (9)~(10)
- 令和 4 年度 中学校教職員研究作品の審査結果 …… 福島県中学校教育研究会研究推進部長 石綿 厚 …… (10)
- 令和 4 年度 中学校教職員研究作品優良作品一覧 …… (11)
- 令和 5 年度 福島県中学校教育研究会役員一覧 …… 事務局 …… (12)

人を育てる中教研

福島県中学校教育研究会会長 高澤正男



まだ若い頃でしたが、県中教研の10月の研究協議会の公開授業を参観する機会がありました。授業者は私と同年代の方でした。「ディベート」の授業でした。今では、学校教育にディベートは定着している感があります。しかし、当時としては、かなり先進的な取組でした。

自分の授業にディベートを取り入れようとしていた私にとっては、実にタイムリーでした。ルールに基づき、生き生きと活発に討論をする生徒の姿は、私にとっては、神の啓示

のようでした。「あなたも、ディベートをやりなさい」そう聞こえました。

授業者は、「ええと」「あのう」「そのう」などは、一切言いません。指示が明快かつ簡潔でした。授業に適度な緊張感があり、テンポよく進んでいきます。普段から、こういう授業であることは、容易に想像できました。

10年ほど前になります。同じく県研究協議会の公開授業を参観する機会がありました。このときは、指導案作成の段階から関わることができました。南会津地区の先生方は、まとまりがよく、授業者だけに任せることはなく、みんなで指導案を練り上げていきました。

当日を迎えました。南会津地区の総力を結集した指導案をもとに、授業が行われました。生徒と授業者の関係がよく、生徒とともに作り上げていく授業でした。生徒たちが授業者を信頼していることがよくわかる授業でした。何だか心温まる授業だったのです。

6年ほど前になります。同じく県研究協議会の公開授業を参観する機会がありました。このときは、二人の授業者から相談を受け、一緒に授業づくりから関わっていました。お二人と、いろいろと話をしました。普段は、今までは、どんな授業をしてきたか。県大会では、どんな授業を試みたいか。二人の授業者の思いや願い、考えを聞きました。ここが重要です。思いや願いが、すべてのベースとなります。

私の方から、ある提案をしました。二人の授業者にとって新しいこと、参観者にとって勉強になること、そのときの教育的

な要請などの観点から、「知識構成型ジグソー学習」をやってみませんかという提案をしました。答えがすぐに返ってくるはずがありません。知らないし、やったことがないので、答えようがありません。

アクティブ・ラーニングが教育界を飛び交っていたときでした。ジグソー学習の原理や基本パターンをお二人に説明しました。半信半疑のよう自信なさげでした。結論は、「やってみます」ということでした。

そこからの二人の行動力には、驚かされました。授業をつくることへの熱量がものすごかったのです。パッションです。書籍を何冊も買って読みました。何度もメールが届きました。研修会にも参加していました。県大会の授業をするという責任感、新たなことに取り組むチャレンジ精神、ワクワク感などが、そうさせたのかもかもしれません。

10月の授業へ向けて、1学期のうちからジグソー学習への取組が始まりました。やってみたところ、ここがうまくいきませんでしたという報告が届きます。今度は、こうやってみようかという話ができます。

こんなやりとりを続けながら、10月の当日を迎えました。ここに至るまでに、お二人の授業は、すでに変わっていました。大変だったことと思いますが、充実した研修の日々でもありました。熱く燃えた期間でした。その対象が授業だったのです。お二人の授業を受けることができた生徒は幸せでしょう。授業に燃える先生の授業を受けることができたのですから。

数年後、あのときの授業者の方に再会できました。「あのときは大変でしたが、今でも私の財産になっています」きっと、この先生は、その後も授業というものに、正面から向き合い、熱い思いを込めていると思うのです。

中教研の県大会には、様々なドラマがあると思います。次年度からは、各支部の実態を踏まえ、県大会の開催方法を変えることとなります。研究主題と副主題を設定し、研究を進めていく研究サイクルも変えていきます。また、今年度から、相馬支部と双葉支部とが合併し、相双支部として活動しています。

これからも、中学校の先生方にとって、数少ない県レベルの授業公開の場となる県研究協議会の役割と使命を維持しながら、約2,600名の会員の皆様とともに、より魅力的な研修の場となるよう、人を育てる中教研であり続けるために、前に進んでいくつもりです。どうぞよろしくお願ひいたします。

令和5年度 福島県中学校教育研究会 福島県教育委員会教育長祝辞

福島県教育委員会教育長 大沼博文



令和5年度福島県中学校教育研究会会報の発行に当たり、お祝いを申し上げます。

貴研究会におかれましては、昭和39年の発足以来、生徒の学力向上、心の教育などの充実や教育課題を的確に捉えた取組などを通じ、本県中学校教育の発展に御尽力いただいていることに対し、改めて敬意を表します。

本県は、東日本大震災及び原子力発電所事故からの復興・創生に向けて、今後も様々な課題を乗り越えていかなければなりません。また、Society5.0の到来や国際情勢の急激な変化等、将来を予測することが極めて困難な社会となっています。正解が一つとは限らない社会の中で、一人一人の多様な幸せと社会全体の幸せであるウェル・ビーイングを実現するためには、児童生徒に自らの力で豊かな人生を切り拓き、多様な他者と共に豊かな社会や地域を創造する力を育むことが不可欠です。

令和4年度にスタートした第7次福島県総合教育計画では、これからの本県教育の柱に「学びの変革」を掲げております。これは、全ての子どもに必要な資質・能力を育成するため、一方通行の画一的な授業から、個別最適化された学び、協働的な学び、探究的な学びへの転換を進める「学びの変革」と、その実現のための環境づくりとしての「学校の在り方の変革」を目指すものです。今年度は年次計画である「学びの変革推進プラン」と、主要施策をパッケージとしてまとめた「『学びの変革』実現のためのストラテジー」に基づき、各施策を進めてまいります。

特に、施策1「『学びの変革』によって資質・能力を確実に育成する」では、ふくしま学力調査等の結果を踏まえ、一人一人の学力や学習状況に応じた授業の改善を支援するなど、個に応じた学力の向上に取り組んでまいります。また、施策2「『学校の在り方の変革』によって教員の力、学校の力を最大化する」では、「教職員多忙化解消アクションプランⅡ」に基づく取組状況等の分析、成果の普及に取り組むなど、教職員が自ら学び、児童生徒と向き合う時間の確保に努めてまいります。

全面実施から3年目を迎えた現行の学習指導要領では、生徒の資質・能力の育成を目指す「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善、カリキュラム・マネジメントの充実、生徒の発達の支援、家庭や地域との連携・協働を重視しております。貴研究会におかれましては、「主体的・対話的で深い学びを通して社会を生き抜く資質・能力を身に付け、ふくしまの未来を創造する生徒の育成」という基本主題のもと、変化する社会の中で、ふるさとふくしまに思いを寄せ、復興の中心となって新たな未来を創造するために活躍できる生徒を育てたいという思いを込めて、研究を進められると伺っております。これはまさに学習指導要領の目指す姿であり、県教育委員会の主要施策と軌を一にしております。教職員の皆さんが遺憾なく力を発揮され、より実践的な研究につなげていただくことを御期待申し上げます。

結びに、貴研究会のますますの発展と、会員の皆さんの一層の御活躍をお祈り申し上げまして、お祝いの言葉といたします。

総会に臨んで

5月8日、ようやく新型コロナウイルス感染症の感染症法の位置づけが2類から5類感染症に移行となりました。この3年間、中教研の各種事業も中止や規模縮小、実施方法の変更等、様々な対策に迫られてきました。昨秋の県中学校教育研究協議会会津大会も、皆様のご尽力とご協力により初のオンライン形式での実施となり、様々な成果を得ることができました。

さて、去る5月11日(休)、記念すべき「第60回福島県中学校教育研究会総会」が福島県青少年会館で開催されました。今年度の総会も各支部長の出席と書面会議を併用した形で行われ、第1号議案から第4号議案が全て承認されました。また第5号議案では新役員が選出され、高澤新会長のもと、昨年度からの基本主題である「主体的・対話的で深い学びを通して社会を生き抜く資質・能力を身に付け、ふくしまの未来を創造する生徒の育成」に基づく研究を進めることを確認しました。

福島県中学校教育研究会副会長 小川茂樹

総会に引き続き行われた支部長会では、60周年記念誌の発行や相馬・双葉支部が統合し相双支部がスタートすること、10月のいわき大会の実施等について確認するとともに、令和6年度以降の県大会の持ち方や中教研運営上の課題について、各支部の実情も含めて、意見や情報交換が行われました。

全県的にも、生徒数・学校数とも減少する中、中教研加入率も低下傾向の状況にあり、会員数の減少は大きな課題です。一方、徐々に増える若手教員の研修・仲間づくりの場としても、今後、中教研の存在意義が一層大きくなると感じています。

コロナ禍での不自由により、オンラインなどICTの活用による新たな可能性、人と人が対面することの大切さなども再確認できました。各支部ならではの課題も念頭に置きながら、中学校教員にとって魅力的で、会員となる価値が実感できる中教研を目指した取組を進めたいとの思いを新たにしました。

令和 5 年度本会予算

収入総額 7,531,310 円
 支出総額 7,531,310 円
 差引残額 0 円

1. 収入の部

項 目	令和5年度予算額	令和4年度予算額	比較増減	付 記
会 費	4,888,000	5,484,000	△ 596,000	2,000 円× 2,444 人
研究委託金	100,000	100,000	0	県中学校長会より
研究助成金	250,000	250,000	0	公務員弘済会より
繰越金	2,293,210	1,762,688	530,522	
雑収入	100	100	0	貯金利息
計	7,531,310	7,596,788	△ 65,478	

2. 支出の部

項 目	令和5年度予算額	令和4年度予算額	比較増減	付 記
1 会議費	1,120,000	880,000	240,000	
(1) 総会費	1,000,000	800,000	200,000	総会・代議員旅費, 要綱印刷, 会場費
(2) 委員会費	65,000	40,000	25,000	委員・理事合同会旅費 (年 2 回)
(3) 理事会費	10,000	10,000	0	理事会旅費
(4) 事務局会費	45,000	30,000	15,000	事務局会旅費
(5) 主題研修会費	0	0	0	総会の日に合わせて実施
2 事務費	370,000	180,000	190,000	
(1) 通信運搬費	40,000	20,000	20,000	送料, 切手代
(2) 消耗品費	60,000	40,000	20,000	書類ケース, 封筒代
(3) 印刷費	70,000	40,000	30,000	運営要覧その 2
(4) 諸費	200,000	80,000	120,000	会計監査会旅費, 令和 5 年度保険料 R 5 年度ホームページ使用料, HP 更新費用
3 事業費	3,350,000	2,683,400	666,600	
(1) 研究大会費	1,600,000	1,348,400	251,600	支部事業費 488,800 いわき大会費 (600,000) 大会要項・開催案内 200,000 その他
(2) 研究調査費	1,000,000	715,000	285,000	専門部へ配当 715,000 (65,000 × 11 教科) + 必要な部への追加配当分
(3) 広報活動費	750,000	620,000	130,000	「中学教育」印刷代 (145号, 特集号, 146号)
4 支部活動費	1,955,200	2,193,600	△ 238,400	各支部活動費 (支部運用費の 8 割)
5 予備費	736,110	1,659,788	△ 923,678	金融指定手数料 他
計	7,531,310	7,596,788	△ 65,478	

令和5年度 運営方針及び事業計画

1 運営方針

生きる力を身に付け、ふくしまの未来を切り拓く生徒を育てるため、会員一人一人が教育者としての自覚と使命感に基づき、自己研鑽を深め、切磋琢磨して、資質の向上を図り、中学校教育を一層充実振興する。

- (1) 基本主題設定の趣旨と各専門部の研究主題により実践研究を深め、各支部活動・各専門部活動を充実し、その成果を共有する。
- (2) 授業の質的改善を中核に研究を推進し、生徒の学力の向上及び心の教育の充実に資する。
- (3) 学習指導要領の趣旨やねらいに基づき、新しい教育の方向を見据えて研究活動を推進し、会員の資質向上を図る。
- (4) 双葉支部については、相馬支部と合併した相双支部としての活動が円滑に進み、充実したものになるよう支援する。

2 努力事項

- (1) 研究活動の充実
 - 基本主題並びに各専門部の研究主題、副主題の趣旨、ねらいの理解を深めるとともに、その解明に努める。
 - 前研究主題での成果と課題を踏まえ、研究主題設定1年次の研究課題を明確にして研究を推進する。

- 会員一人一人の教育の実践研究の成果を支部研究協議会や県研究協議会を通して共有し、研究内容の一層の質的改善を図る。
- (2) 研究奨励事業の推進
 - 会員の自発的な研究活動を促進し研究内容の質的充実を図るとともに、研究活動事業を推進する。
 - 生徒の学習や自主的活動を奨励し、学習成果の発表等の推進を援助する。
- (3) 広報、出版活動の充実活用
 - 会報や各専門部部報の内容を充実させ、各支部、各専門部の情報交換や会員の教育活動に資する。
 - 研究集録の充実に努め、研究発表や研究協議会の成果の共有化を図る。
 - 学習指導について有効に活用できる広報活動の充実に努める。
- (4) 事業運営の工夫
 - 会議や研究協議会等の効率的な運営改善に努める。
 - 県研究協議会の運営に対する適正化について一層の検討を重ね、今後の研究会等の運営について工夫改善を図り、また、予算を効率的、且つ適正に運用する。

3 事業計画

月日	行事名	内容	会場	備考
4月中旬	支部総会	支部総会、専門部総会	各支部	
5. 11(木)	総会・支部長会(午前) 支部専門部長会(午後)	総会：各支部長のみ参加 支部専門部長会：主題研修、専門部研究方向決定	福島市	
5. 25(木)	理事会	県研究協議会の運営、主題研修会の反省、ワークブック刊行計画、専門部の経理事務の進め方、研究作品第一次審査	福島市	県専門部長、県事務局
6. 8(木)	研究作品審査会	研究作品第二次審査	福島市	県事務局
6. 27(火)	六十周年記念誌編集委員会	編集方針、分担の確認	福島市	県事務局
7月上旬	機関誌発行①	第145号(総会特集、県研究協議会の持ち方など)		
7月下旬	各支部研究協議会(夏季)	令和5年度研究主題による研究協議会、県研究協議会参加者の決定	各支部	
8. 21(月)	委員・理事合同会①	総会等の反省、県研究協議会の運営、ワークブック刊行、研究作品審査結果	福島市	各支部長、県専門部長、県事務局
9月下旬	機関誌発行(特集号)	研究作品『優秀賞』特集		
9. 11(月)	ワークブック契約会	令和6年度使用ワークブックの契約	福島市	関係県専門部長、県事務局
10. 5(木)	県研究協議会 いわき大会	授業公開、各専門部研究協議会	いわき 地区	参加者220名
10月～11月	各支部研究協議会(秋季)	令和5年度研究主題による研究協議会、県研究協議会の報告	各支部	
12月～2月	各専門部会	各専門部の研究推進、部報発行		
12月中旬	研究集録発行	県研究協議会いわき大会のまとめ、研究主題の解説		
1. 17(木)	委員・理事合同会②	令和6年度運営計画、総会・支部長会・支部専門部長会運営	福島市	各支部長、県専門部長、県事務局
2月下旬	研究作品提出締切り	令和6年度各支部研究作品提出		
3月上旬	機関誌発行②	第146号(令和6年度運営計画、研究主題、研究推進)		
3. 14(木)	会計監査	令和5年度会計監査	福島市	県事務局

※令和5年8月4日(金) 県中学校美術ゼミナール (郡山市)
 ※令和5年9月8日(金) 県下小・中学校音楽祭(第1部合唱) (須賀川市文化センター)
 ※令和5年9月14日(木) 県中学校英語弁論大会 (会津若松市文化センター)
 ※令和5年10月13日(金) 県下小・中学校音楽祭(第2部合奏) (白河文化交流館コミネス)
 ※令和5年12月1日(金) 県生徒造形作品研究会並びに秀作審査会 (郡山市青少年会館)

令和 5 年度 基本主題設定の趣旨と研究の進め方

基本主題：「主体的・対話的で深い学びを通して社会を生き抜く資質・能力を身に付け、ふくしまの未来を創造する生徒の育成」

1 基本主題設定の趣旨

これからの時代は、生産年齢人口の減少、グローバル化や技術革新等により、社会構造や雇用環境が急速に大きく変化する中、急激な少子高齢化が進み、一人一人が持続可能な社会の担い手として、その多様性を原動力とし、質的な豊かさを伴った個人と社会の成長につながる新たな価値を生み出していくことが期待されている。また、人工知能（AI）が飛躍的な進化をとげ、雇用の在り方や学校で獲得する知識の意味に大きな変化がもたらされても、思考の目的を与えたり、目的の正しさ・美しさを判断したりできるのは人間の最も大きな強みであるということの再認識につながっていくとも言われている。

このような時代において、学校教育には、子どもたちが様々な変化に積極的に向き合い、他者と協働して課題を解決していくことや、様々な情報を見極め知識の概念的な理解を実現し情報を再構成するなどして新たな価値につなげていくこと、複雑な状況変化の中で目的を再構築することができるようにすることが求められている。子どもたちが学習内容を人生や社会の在り方と結び付けて深く理解し、これからの時代に求められる資質・能力を身に付け、生涯にわたって能動的に学び続けられるようにするためには、これまでの学校教育の蓄積を生かし、学習の質を一層高める授業改善の取組を活性化していくことが必要であり、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善を推進することが求められる。

令和 4 年度から、新たな基本主題「主体的・対話的で深い学びを通して社会を生き抜く資質・能力を身に付け、ふくしまの未来を創造する生徒の育成」に基づき研究を推進しているが、令和 3 年度に新学習指導要領が全面実施となったことを踏まえて、今までの研究成果を基に、各教科で「主体的・対話的で深い学び」をさらに具体化、深化させる 3 年間の研究になると考える。また、「生きる力」という理念をより具体化した「社会を生き抜く資質・能力」を育むには、これからの社会を創り出していく子どもたちが、社会や世界に向き合い、関わり合い、自分の人生を切り拓いていくために求められる資質・能力を各教科等において明確にすることが重要になる。

新たな基本主題には、震災から 10 年以上が経過しても、子どもたちが変化する社会の中で、ふるさとふくしまに思いを寄せ、復興の中心となって新たな未来を創造するために活躍できる人材に育つことを願い、

県中教研として、そのような生徒を育てなければならないという使命感も込めた。

各専門部においては、これまでの研究の成果及び課題を十分に踏まえながら、これらの趣旨に基づき、会員一人一人が、本会の目的に適合した主体的な研究が発展的に推進できるよう、創意工夫が望まれる。

2 研究の進め方

東日本大震災から 10 年以上が経過してもなお厳しい教育環境の中にあつて、「生徒にとって、最も身近で、最も重要な教育環境は教師であり、授業である」ことを肝に銘じ、本会設立当初の「教育を愛する者が、愛する生徒たちのために、自分に鞭打つその鞭を求めて集い合う研究団体である」という原点に立ち返って、教師としての情熱と使命感をもって研鑽に励むことが望まれる。

各支部・各専門部は、昨年度までの研究の成果と課題を踏まえつつ、基本主題設定の趣旨を十分に踏まえた上で、研究のねらい、内容や方法を明示して研究実践に取り組む必要がある。そのために次の点をおさえて実践内容の重点化を図り、研究の深化が得られるように努力する。

- (1) 基本主題、研究主題・副主題の設定の趣旨の周知を図り、その趣旨が十分に生かされた研究実践を推進する。
 - 会員の共通理解に立った研究計画のもと研究を実践する。
- (2) 各支部においては、昨年度までの研究の成果と課題を踏まえながら、研究推進 2 年次として課題と方向性を明確にして研究実践を推進する。
- (3) 会員一人一人が、研究主題・副主題の趣旨を理解し、自校の生徒の実態に即応した、実効ある研究を推進する。
 - 生徒の実態をとらえ、課題を明らかにし、研究の有効性を的確に評価しながら継続的に研究実践を推進する。
- (4) 支部研究協議会の運営等について工夫し、各専門部の研究活動を充実させる。
 - 各支部会員相互の研究実践に対する意識の高まりを促し、充実した運営を工夫する。
- (5) 各教科で発行している部報を適切に活用し、研究実践を推進する。
 - 日常的な研究実践に活用するとともに、主題研修報告会、研究協議会での活用を図る。

各支部の研究の方向性について

国語部会

白河市立白河第二中学校 小野 聡

- 5月23日に開催した主題研修会報告会において、副主題「思考力、判断力、表現力等を育成する指導の工夫」について研究を深めるべく、視点を「ウ 言葉を用いて社会を見つめ、自ら関わろうとする姿勢を育み、思いや考えを伝え合う力を育成するための言語活動の工夫」に絞って、全部員で実践していくことを確認した。
- 実践にあたっては、授業構想を練るポイントとして、①単元、教材で身に付けたい力を見極めること、②付けたい力を確実に身に付けるために最適な言語活動を設定すること、③単元へ言語活動を適切に位置付けること、④「伝えたい」などの子どもの思いを重視すること、等について共有した。また、言語活動を単元の初めに子ども達に確実に伝え、見通しをもたせると共に、毎時間の学習が、その言語活動と常に結び付いていることを意識させることも大切であることを共通理解した。
- 今後、東西しらかわ支部18校、37名の部員が、それぞれの実践を夏の研究協議会に持ち寄り、研究を深める予定である。設定した言語活動の紹介、その効果や子ども達の変容等について、県南教育事務所武田妙子指導主事の指導をいただき、今後の授業に生かせるように進めていきたい。

数学部会

喜多方市立第三中学校 五十嵐 清人

本支部では、会員数の減少に伴い、昨年度より両沼支部と合同で開催しています。5月22日の主題研修報告会では両支部の会員が集まり、研究の進め方について協議を行い、研究主題「数学的に考える資質・能力を育成する指導はどうあればよいか」副主題「思考力・判断力・表現力等を育成する指導の工夫」のもと研究推進することを確認しました。

副主題については、部報では「思考力・判断力・表現力等」は、問題を見いだしたり、知識及び技能を活用したりするときに必要であり、「数学を活用して論理的に考察する力」「数量や図形などの性質を見だし、統合的・発展的に考察する力」「数学的な表現を用いて事象を簡潔・明瞭・的確に表現する力」がある。これらを踏まえ、「生徒が主体的な学習に取り組むための授業づくりで留意したい6つの視点」をもとに授業づくりをしていくよう示されています。

7月の第1次研究協議会では、6つの視点を踏まえ、各会員が日頃の実践とそれらの成果や課題等をまとめた資料をもとに、学年ごとのグループに分かれて実践研究を進めることで成果を広めていきたいと思えます。

社会部会

会津若松市立大戸中学校 藤田 信一

北会津支部では、以前と比べて会員数が減っていることから、今年度県大会で発表する歴史的分野に絞って研究を進めていく。

部報をもとに研究主題・副主題を確認するとともに、支部専門部長会で得た各支部の研究の方向、具体的な研究内容についての情報を参考にして、支部としての取り組み方を検討した。その結果、部報に示されている「多面的・多角的に事象を捉え、考察する力を高めるための授業の工夫」のための手立てのうち、課題把握の場面、課題追求の場面、まとめ・振り返りの場面について、県大会の行われるいわき支部と同じ各3項目をふまえることで、県大会での公開授業の理解や分科会での研究発表と協議を深めていくこととした。

第1次研究協議会では全員が実践事例を持ち寄り、発表については積極的にICTを活用するとともに、Googleに共有ドライブを設定して、日頃から資料の交流を進めていく。第2次研究協議会では、専門家を講師として地域の歴史について実地研修を行う。また、懇親会を復活させ、会員の交流を深めていくきっかけを作るとともに、会員のニーズを踏まえた、日々の授業充実につながる研究を進めていくこととした。

理科部会

三島町立三島中学校 鶴水 達也

両沼支部理科部会は、今年度、耶麻支部理科部会と合同で研究を行うこととなった。

(1) 研究主題の受け止め方

部報57号「資質・能力を養う上で、1単位時間だけでなく、単元など内容や時間のまとまりの中で、育成すべき資質・能力を整理し実践することが重要である」を受け、単元構想を工夫し、①生徒の思いや願いを起点とした単元を貫く問いやねらいの設定、②探究の流れに沿った構想を行う、③生徒の実態から推察する重点的に取り組むべき資質・能力や各学年の重点項目を踏まえた単元構想、以上の3つを柱として単元構想を行う事で主体的な探究活動が行われ、科学的に探究するために必要な資質・能力が身につくであろうと考えた。

(2) 研究の進め方と内容

- ① 単元を貫く問いを持たせる工夫をする。
- ② 身近な自然事象の中から、生徒の思いや願いを起点とした問いを基に、見通しを持って観察・実験などを行わせる支援の工夫をする。
- ③ 探究の過程の流れを意識した授業構想を行う。
- ④ 学年に応じた探究活動に取り組ませる。
- ⑤ 学習の深まりを自ら評価させる工夫をする。

音楽部会

南会津町立荒海中学校 松村 圭 祐

本支部では、県の研究主題に迫るために、令和 4 年度の副主題である「実感を伴う理解による知識や技能の習得につながる題材構成の工夫」の研究を通して身に付けた「知識・技能」を活用しながら、今年度の副主題である「音や音楽及び言葉によるコミュニケーションを図る学習活動の工夫」の「コミュニケーション」の部分に焦点を当てつつ、「思考力・判断力・表現力」等を身に付けさせるための指導と手立ての在り方について工夫をして取り組むことを確認した。

研究にあたっては、様々な見方や考え方を知り、その中で言語活動と音楽活動を適切に組み合わせながら題材構想を行う必要がある。言葉のやり取りに終始することなく、言葉で表したものと音や音楽とのかかわりが捉えられるようにすることを大切に授業の構成を工夫する。

なお、夏の第一次研究協議会では、支部内の学校規模や現状もさまざまであるため、各学校の実態に応じて研究を行うこととした。支部会員の少ない中での研究となるが、研究会では日頃の実践事例をもちより、全員で協議・情報交換を行うことを通して授業力の向上につなげたい。また、ICTの有効な活用方法について知りたいという意見も出されているので、研究の場を設けていくことを計画している。

保健体育部会

伊達市立霊山中学校 佐藤 徳 之

昨年度からの研究主題は「体育や保健の見方・考え方を働かせ、生涯にわたって心身の健康を保持増進し、豊かなスポーツライフを実現するための資質・能力を育む指導はどうあればよいか」であり、今年度の副主題は「運動課題の解決を目指す協働的な学習活動の工夫と学習評価の改善」(体育分野)である。伊達支部では、各校ごとに研究内容から 1 つを選択し、各校の実態に合わせて研究を進めていく。

(1) 研究内容

- ア 運動の特性等に応じた自らの課題や仲間の課題を明確に捉える指導の工夫について
- イ 既習事項等を活用しながら仲間とともに課題解決に取り組む指導の工夫について
- ウ 指導と評価の一体化を図り、主体的に運動学習に取り組もうとする意欲や態度を育てる評価の工夫について

(2) 研究方法

研究内容を焦点化し、実態把握—仮説検証—考察の過程を踏まえた具体的で一貫性のある研究を推進する。

研究協議会では会員全員で授業への思いを議論し、授業実践に関する情報交換を通して学びを深め、指導力の向上を図る魅力的な研修会になるよう進めていきたい。

美術部会

相馬市立中村第二中学校 佐藤 武

本支部は、今年度から相馬支部と双葉支部が合併し、相双支部として活動することになりました。震災以降、県内の各支部の皆様には、様々なご理解とご支援をいただき、厚く感謝申し上げます。特に、双葉支部の活動については、双葉支部の学校が避難した先の支部で中教研に参加させていただくなど、多大なるご配慮をいただきました。

このたび、相双支部として再出発するにあたり、極少人数の学校が多く、しかも距離的にも広範囲な支部となり、会議等の開催においては、工夫が求められることも多くあると想定されますが、様々な知恵を出しながら、相双支部として研修をまいります。

そうした中、相双支部美術部員は、11校、12名です。多くの学校で震災による影響等により生徒数が激減し、極少人数の学校が多いという実態があります。

今年度の美術部主題・副主題を受けて、多様な見方を生徒達に実感させるためには、これまで蓄積してきた ICT 等を活用した授業の工夫などが有効と考えています。また、今年度、相双支部として活動する 1 年目にあたり、他校の取組を互いに大いに吸収しあえる美術部会にしたいと考えています。

技術・家庭部会

いわき市立田人中学校 高萩 雅 人

研究主題「生活の営みや技術に係る見方・考え方を働かせ、よりよい生活の実現や持続可能な社会の構築に向けて、生活を工夫し創造する資質・能力を育成するための指導はどうすればよいか」二次次に取り組んでいく。

今年度は、「主体的・対話的で深い学びを展開するための指導過程の工夫が副主題となり、本支部では「B 生物育成の技術」を対象に実践研究を行う。

以下の(1)~(4)の視点で研究を進めることとした。(1)生徒が主体的に取り組む課題になっているか、再度検討する。(2)「B 生物育成の技術」の学習の中で身に付けなくてはならない資質・能力を確認する。(3)学習過程(課題解決)の中で、以下の場面を意図的に設定する。①他者と対話する場面、協働的な場面、②学習内容を実際の生活で生かす場面、③自分の生活が家庭や地域社会と関わっていることを認識する場面 (4)自分の考えを広げたり、深めたりする展開を工夫する。

夏の研究協議会では、各自の実践を発表し、より効果的な指導法について協議を行う。10月5日の県研究協議会いわき大会での公開授業や研究協議で研鑽を重ね、会員相互の授業力の向上に努めていきたい。

英語部会

二本松市立二本松第三中学校 中山 輝 仁

昨年度は、状況や背景を理解し、相手に配慮しながらコミュニケーションを行う生徒の育成を目指して研究を進めてきた。特に、言語活動における「課題設定の工夫や「見方・考え方」を働かせるタスク活動に焦点を当て、取り組んできた。

今年度においては、前年度の研究のポイントを踏襲しながら、令和5年度の副主題を受けて次のように取り組む計画である。まず、授業の中に設定される活動を通して、身につけるべきスキルをより効率的にそして効果的に学習できる場を設定し、その授業での課題に迫るため「振り返り」と「中間指導」をどのように行うかに焦点を当て、研究を進めることとする。また、教科書にある活動をより効果的にするために工夫を加え、それらを用いながら「振り返り」と「中間指導」をどのように設定し、実践していくのかも考慮しながら研究する。

- 支部の研究課題
「生徒が課題解決に向けて考えや気持ちを伝え合う言語活動の工夫」
- 支部研究のキーワード「中間指導と振り返り」
- 研究の実践
「中間指導と振り返りの工夫」に関する授業実践
「基礎・基本を高めるための帯活動」の開発

道徳部会

郡山市立安積第二中学校 荻野 由 則

研究主題「自己を見つめ、他者と共によりよい生き方を探究する道徳の学びはどうすればよいか」を受け、今年度は「自己を振り返り、よりよい生き方について考えを深めることができる指導の工夫」を各自の実践を基に進めていきたいと考えています。

郡山支部の会員は新採用教員の急増と経験のあるベテランが在籍する現状があり、研修の在り方もそれぞれの先生方のニーズに合うよう「会員一人一人が参加して良かったと思える研究を進めよう」を掲げて取り組んでいます。

今年度の取り組みとしては、支部の実態、環境を踏まえ各自の授業実践を深めるために市の研修センター講座の活用（文科の調査官が講師）や市内の実践校（今年度は小学校の研究公開等から学ぶ）をもとに各自の道徳の指導力の向上を図っていけるよう計画を立てています。

また、道徳の指導案づくり（初任者が増加していることを踏まえ、単元設定の理由、特に指導観にもとづく授業計画部分）や気持ち（感情）の可視化につながる実践事例の共有を目指して、道徳の授業を行う際の困り感の解消など日常の道徳実践に生かせる中教研道徳部会でありたいと考えています。

特別活動部会

天栄村立天栄中学校 濱 津 太

岩瀬支部では、昨年度より、研究主題にある「自主的・協働的な取り組み」を、学級や学校における集団活動を通して生活上の諸問題を自分たちで見いだしたり、解決できるようにしたりすること、多様な他者との話合いや集団活動を通して、自己の考え方を協働的に広げ、深めていくことととらえ研究を進めてきた。

また、副主題にある「課題を解決する力」を育成するための手立てとして、次の二つのことを考えている。

一つ目は、互いの意見を比べ合い解決方法を見付ける場において、思考を可視化する工夫をしたり、多様な意見を基に折り合いを付けて意見をまとめさせたりすることでよりよい合意形成や意思決定を促すこと。

二つ目は、一連の活動過程の中で振り返りを重視し、お互いのよさを認め励まし合う場を繰り返し設定することで、自己有用感や自己肯定感が得られ、集団をよりよくしていこうとする力を育てること。

以上のことを踏まえ、今年度は「生徒会活動」をテーマに各校の実践や試案についてまとめ、第一次研究協議会で協議する。また、10月に開催される生徒交歓会では、文化祭の在り方や校則の見直しをテーマに生徒会役員同士で情報交換及び協議を行う予定である。



令和 5 年度福島県中学校教育研究協議会いわき大会をひかえて

いわき大会実行委員長 松本仁志

(いわき市立平第二中学校長)



いわき地区では、3年前より市各教科専門部長を中心とし、理事や会場校の先生方、各会員と共に準備を進めてまいりました。1年目は教材研究、2年目は県大会を意識した授業づくりと県大会プレ授業公開、そして今年度3年目は、昨年度の会津

大会の成果と課題を受け、いわき地区での研究をさらに練り上げ、発表に向けて取り組んでいるところです。昨年度のいわき地区でのプレ授業公開は、新型コロナウイルス感染防止対策を徹底しながら、会員同士が実際に集い、以前のような形で授業参観や研究協議を行うことが

できました。対面だからこそその協議の広がりや深まりがみられ、会員同士の絆も強くなったように感じました。今年度のいわき大会も県内の会員のみなさんといわき地区の会員が交流を図り、互いに学び、深め合えるような場にしたいと思っております。そして、その成果を各支部に持ち帰って実践し、会員一人一人のスキルアップに役立つものとなれば幸いです。

今年度のいわき大会が最後の全教科一斉開催となります。自校において目を輝かせて待っている生徒たちのために、互いに指導力を上げられるような大会を目指していききたいと思います。

令和 6 年度より「県中学校教育研究協議会（県大会）」の運営方法が変わります

1 運営方法改訂の趣旨

以前より中教研県大会の運営方法（あり方や持ち方）について、改革を求める意見が寄せられていました。令和 4 年度の研究実践の反省の中にも、「会員数の減少により開催（部会の運営）が難しい」「今後の見通しとして持続可能なあり方を模索していく必要がある」等の意見がありました。また、働き方改革や新型コロナウイルス感染症、支部の合併等もあるなど、中学校教員の研修の場である「中教研」も変革の時期に来ていると考えられます。

改革案については、令和 3 年度より「研究集録の簡略化」を図ったり、令和 4 年度から、「総会」「支部長会」「各専門部会」「主題研修会」を同一日に設定したりしてきました。

さらに、もう一段階改革を進めるために、令和 6 年度からの「県中学校教育研究協議会（県大会）」を以下の運営方法で実施することとします。

2 改訂の内容及び実施方法

(1) 開催年度

- 毎年開催とします

(2) 研究主題と副主題 ※ 令和 7 年度より変更

- ① 研究主題に対して副主題を 2 つとします。（これまでは 3 つ）
- ② 1 つの副主題を 2 年かけて研究することとします。（これまでは 1 年）
- ③ 研究サイクルは 4 年で 1 サイクルとします。

(3) 開催ローテーション

- ① 地区別ローテーション表（次頁）によって、各教科を地区に割り振り、県大会を実施します。
- ② 割り振られた地区の支部長間で協議し、担当教科と会場校を決定します。

◇ 例えば令和 6 年度に県北地区（福島・伊達・安達）で開催する場合

例 1：3 教科を 3 支部で分担して開催する。

例 2：令和 6 年度は 3 教科を福島支部で担当し、次年度は他支部で 3 教科を分担する。
等

(4) 実行委員会

- ① 該当地区（支部）の支部長を中心に地区実行委員会を立ち上げ、県大会までの準備を進めます。
- ② 地区実行委員長は県の副会長が務めます。（5 地区 5 名の中で）
- ③ 県事務局と県専門部長がそれぞれの実行委員会に関わり、スムーズに運営できるように支援します。（地区実行委員会の会議には県事務局・県専門部長もオンライン等で参加します）
- ④ 地区実行委員会の開催時期については、今後検討して提示します。

(5) 令和 5 年度中の行程

- ① R 5. 7. 下旬…中教研会報「中学教育」第 145 号にて全会員に周知する。
※ 研究サイクル（R 7～）、県大会開催ローテーション、実行委員会 等
- ② R 5. 10 月上旬まで…令和 6 年度の開催支部、会場校を決定する。
※ 各地区の支部長間で話し合い、調整→事務局へ報告
- ③ R 6. 1. 17 …②について、第 2 回委員・理事合同会にて周知する。
- ⑥ R 6. 3. 月上旬…次年度県大会の実施案について、中教研会報「中学教育」第 146 号に掲載する。

中教研県大会 地区別ローテーション 令和6年度～11年度

地区(ブロック)	年度	国語	社会	数学	理科	音楽	美術	保体	技・家	英語	道徳	特活
県北 (福島・伊達・安達) 3教科	R6	○					○			○		
	R7		○					○			○	
	R8			○					○			○
	R9	○			○					○		
	R10		○			○					○	
	R11			○			○					○
県中・県南 (郡山・岩瀬・石川 田村・東西しらかわ) 3教科	R6		○					○			○	
	R7			○					○			○
	R8	○			○					○		
	R9		○			○					○	
	R10			○			○					○
	R11	○				○		○				
会津 (北会津・耶麻 両沼・南会津) 1教科	R6			○								
	R7				○							
	R8					○						
	R9						○					
	R10							○				
	R11								○			
相双 1教科	R6				○							
	R7					○						
	R8						○					
	R9							○				
	R10								○			
	R11									○		
いわき 3教科	R6					○			○			○
	R7	○					○			○		
	R8		○					○			○	
	R9			○					○			○
	R10	○			○					○		
	R11		○			○					○	

※ 会員数等を考慮して、担当教科数を割り振った。
 ※ 支部長間の協議により、各年度の担当校を決定する。

令和4年度中学校教職員研究作品の審査結果

福島県中学校教育研究会研究推進部長 石 綿 厚

令和4年度の各支部推薦教職員研究作品26点について、去る5月25日の第一次審査において、優秀作品5点を選出し、6月8日に第二次審査を行い、優秀作品の中から最優秀作品として2点を選出いたしました。

審査の内容及びその結果を報告いたします。なお研究内容、審査講評等は特集号において公表いたします。

1 研究作品の領域別出品数

学習指導 22点 道徳・特別活動等3点
 社会科(個人) 1点 合計26点

2 審査の観点

- (1) 研究の構想
 - 研究の目的
 - 研究計画・方法
 - 研究の理論
- (2) 研究の内容
 - 実践の適切性
 - 内容の一般化
 - 資料の累積

- (3) 研究のまとめ
 - 結論の妥当性
 - 研究成果の活用性
 - 表現や記述、まとめ方の工夫

- (4) 研究の総合性
 - 研究の価値

3 審査員

- (1) 第一次審査
 会長・事務局長・県専門部長(理事)・事務局員
- (2) 第二次審査
 福島県教育庁義務教育課 主任指導主事
 芦 沢 康 先生
 福島県教育センター 指導主事
 猪 俣 和 弘 先生

4 審査結果

(1) 最優秀賞

No	支部名	氏名	学校名	教科・領域	研究テーマ
1	福島	代表 高澤 正男	野田中	学習指導	一人も取り残さない「わかる」授業システムの構築 ～リーディングスキル・自力解決・振り返りを通して～
2	郡山	代表 高山 良勝	明健中	学習指導	対話を通して学びを深め・高め合う子どもを目指して ～学習場面に応じた ICT の効果的な活用を通じた「深い学び」の実現に向けて～

(2) 優秀賞

No	支部名	氏名	学校名	教科・領域	研究テーマ
1	福島	代表 阿部 洋己	松陵中	学習指導	主体的・対話的に学ぶ生徒の育成 ～協働的に学ぶ授業づくりの工夫～
2	岩瀬	代表 渡部 幹雄	湯本中	学習指導	キャリア教育を通じた生徒の資質・能力の育成 ～アントレプレナーシップ教育の実践を通して～
3	北会津	代表 秋山 了	磐梯中	学習指導	主体的・協働的に学ぶ生徒の育成 ～ユニバーサルデザインの視点を通して～

令和 4 年度 中学校教職員研究作品優良作品一覧

No	支部名	氏名	学校名	教科・領域	研究テーマ
1	福島	代表 高澤 正男	野田中	学習指導	一人も取り残さない「わかる」授業システムの構築 ～リーディングスキル・自力解決・振り返りを通して～
2	福島	代表 阿部 洋己	松陵中	学習指導	主体的・対話的に学ぶ生徒の育成 ～協働的に学ぶ授業づくりの工夫～
3	福島	代表 佐藤 力夫	川俣中	学習指導	主体的に学び続ける生徒の育成 ～「深い学び」につながる学習過程の工夫～
4	伊達	代表 二瓶 匡弘	梁川中	学習指導	自ら考え、表現し、共に高め合う生徒の育成 ～学びを深める学習サイクルの工夫（各教科と学年・学習集団の視点から）～
5	伊達	代表 石綿 厚	醸芳中	学習指導	主体的に学習に取り組み、学び高め合う授業の創造 ～4つのステップを活かした問題解決的な学習を通して～（4年次）
6	安達	代表 加藤 広明	小浜中	学習指導	共に学び高め合う生徒の育成 ～深い学びにつながる振り返りと支援の工夫～
7	安達	代表 三津間 勝彦	本宮二中	学習指導	新たな課題に挑戦し続ける生徒の育成 ～5つの「主体的な学び」の実現を目指す授業デザイン～
8	郡山	代表 早崎 保夫	郡山二中	学習指導	主体的に学習に取り組む態度を育む指導と評価の工夫
9	郡山	代表 古川 浩	富田中	学習指導	自ら考え抜く自立した学び手の育成（3年次） ～活用場面を設定した授業改善を通して～
10	郡山	代表 高山 良勝	明健中	学習指導	対話を通して学びを深め・高め合う子どもを目指して ～学習場面に応じた ICT の効果的な活用を通じた「深い学び」の実現に向けて～
11	郡山	代表 安田 良一	郡山三中	学習指導	「主体的・対話的で深い学び」を通じた学力向上（3年次） ～効果的な ICT 活用を基盤とした授業改善～
12	岩瀬	代表 八木沼 孝夫	須賀川一中	学習指導	主体的・対話的で深い学びを通して、生徒の可能性を伸ばす学習指導の在り方 ～思考力・判断力を高めるための言語活動の工夫～（2年次）
13	岩瀬	代表 渡部 幹雄	湯本中	学習指導	キャリア教育を通じた生徒の資質・能力の育成 ～アントレプレナーシップ教育の実践を通して～
14	石川	代表 富岡 信	石川中	学習指導	「主体的に学び、学力の向上に努める生徒の育成」 ～個別最適化の学習を目指して～
15	田村	代表 助川 徹	船引中	学習指導	主体的・対話的で深い学びを実現させた生徒の育成（2年次） ～「思考力、判断力、表現力等」の力を身に付け、自分の言葉で自分の考えを表現させる実践～
16	田村	代表 佐久間 誠	常葉中	学習指導	伝え合い、学び合う児童・生徒の育成 ～対話活動の充実を図る授業作り～
17	東西 しらかわ	代表 高田 健一	白河中央中	学習指導	確かな学力を身につけ伸ばす授業の創造～協働的な学びを通して、自ら学ぶ意欲を育てる学習活動の工夫～
18	東西 しらかわ	代表 川口 和彦	東中	学習指導	主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業の創造 ～定着と活用のスパイラルを生かした授業の工夫～
19	北会津	代表 植村 信	一箕中	学習指導	思考力・判断力・表現力を高める指導の工夫 ～教育クラウドプラットフォームの機能を生かした言語活動の充実～
20	北会津	代表 秋山 了	磐梯中	学習指導	主体的・協働的に学ぶ生徒の育成 ～ユニバーサルデザインの視点を通して～
21	耶麻	代表 板橋 和典	喜多方一中	特別活動	生命の大切さを尊重して行動できる生徒の育成 ～様々な教育活動で、防災教育の指導の工夫や実践を通して～
22	両沼	代表 野口 幸哉	金山中	学習指導	「確かな学力を身につけ、生徒の自己肯定感を高める指導はどうあればよいか」 ～表現力やコミュニケーション力を育む学習指導の工夫を通して～
23	南会津	代表 飯塚 敏明	檜枝岐中	道徳	自ら伸びようとする児童生徒の育成 ～少人数教育・小中一貫教育を活かして～
24	南会津	教諭 中島 史弥	下郷中	社会科	社会的な見方・考え方を働かせた思考力、判断力・表現力等の育成 ～単元を一単元として捉え単元構想とふくしま活用学習シートを用いた授業の工夫～
25	相馬	代表 松本 一宏	中村一中	学習指導	「思いや願いを育み、学びを深め合える生徒の育成」 ～リーディングスキルの視点を取り入れた授業改善と指導の工夫～
26	双葉	代表 佐藤 仁	葛尾中	総合的な 学習の時間	探究的な学習に主体的・協働的に取り組む生徒の育成（3年次） ～地域の人、もの、ことに関わる活動を通して～

令和5年度 中学校教育研究会役員一覧

役職名	氏名	学校名	郵便番号	学校所在地	電話番号
会長	高澤正男	野田中学校	960-8057	福島市笹木野字市街道28-1	024-531-0031
副会長	佐藤健夫	本宮一中学校	969-1155	本宮市本宮字懸鉄15	0243-33-2249
	金子景二	泉崎中学校	969-0101	西白河郡泉崎村大字泉崎字上陣場14	0248-53-2412
	小川茂樹	若松六中学校	965-0064	会津若松市神指町大字黒川字湯川東296	0242-22-5153
	高瀬永志	中村一中学校	976-0042	相馬市中村字本町132-1	0244-35-2237
	松本仁志	平二中学校	970-8023	いわき市平鎌田字味噌能2	0246-25-2479
監事	佐藤知巨	滝根中学校	963-3602	田村市滝根町神俣字中広土192	0247-78-2024
	菅野重徳	醸芳中学校	969-1661	伊達郡桑折町大字上郡字柳下5	024-582-3162
	島貫健	平野中学校	960-0231	福島市飯坂町平野字館ノ前3-3	024-542-3074
委員	福島	高澤正男	960-8057	福島市笹木野字市街道28-1	024-531-0031
	伊達	菅野重徳	969-1661	伊達郡桑折町大字上郡字柳下5	024-582-3162
	安達	佐藤健夫	969-1155	本宮市本宮字懸鉄15	0243-33-2249
	郡山	古川浩	963-8041	郡山市富田町字細田83-1	024-938-7521
	岩瀬	須藤瑞穂	962-0816	須賀川市朝日田54	0248-73-2377
	石川	酒井一憲	963-8205	石川郡平田村大字永田字堂作145-1	0247-55-2005
	田村	佐藤知巨	963-3602	田村市滝根町神俣字中広土192	0247-78-2024
	東西かわ	金子景二	969-0101	西白河郡泉崎村大字泉崎字上陣場14	0248-53-2412
	北会津	小川茂樹	965-0064	会津若松市神指町大字黒川字湯川東296	0242-22-5153
	耶麻	佐藤毅	966-0801	喜多方市字常盤台25	0241-22-0799
	両沼	小関英紀	969-6041	大沼郡会津美里町字川原町1933	0242-56-3005
	南会津	室井辰生	967-0307	南会津郡南会津町水石19	0241-78-2004
	相双	高瀬永志	976-0042	相馬市中村字本町132-1	0244-35-2237
いわき	松本仁志	970-8023	いわき市平鎌田字味噌能2	0246-25-2479	
理事	国語	吉川信夫	960-8254	福島市南沢又字清水端23	024-559-0085
	社会	鈴木豊	960-1101	福島市大森字南内町31-1	024-546-7693
	数学	小澤誠	960-0102	福島市鎌田字御仮家20	024-553-5049
	理科	阿部洋己	960-1241	福島市松川町字上桜内3-4	024-567-2040
	音楽	湯田公夫	960-0231	福島市飯坂町平野字館ノ前3-3	024-542-3074
	美術	國島篤	960-8013	福島市南平5-8	024-535-4240
	保体	佐藤力夫	960-1464	伊達郡川俣町字宮ノ脇14	024-566-4111
	技・家	福地淳一	960-1101	福島市大森字南内町31-1	024-546-7693
	英語	菅野浩智	960-8214	福島市古川44-2	024-534-3171
	道徳	神尾孝弘	960-1501	伊達郡川俣町山木屋字小塚山9-1	024-563-2104
特活	渡部正晴	960-2261	福島市町庭坂字原田8	024-591-1109	
事務局長	嶋原俊洋	福島二中学校	960-8133	福島市桜木町5-20	024-534-2166
総務部長	菅野靖	北信中学校	960-0102	福島市鎌田字御仮家20	024-553-5049
同 副部長	星文行	渡利中学校	960-8141	福島市渡利字平内町106	024-523-5500
研究推進部長	石綿厚	岳陽中学校	960-8067	福島市須川町1-33	024-534-6171
同 副部長	遠藤博晃	附属中学校	960-8107	福島市浜田町12-26	024-534-6442
刊行部長	川名健一	西根中学校	960-0211	福島市飯坂町湯野字大平2	024-542-4641
同 副部長	吉田牧子	西信中学校	960-2155	福島市上名倉字道上6	024-593-1049
一般会計部長	神尾孝弘	山木屋中学校	960-1501	伊達郡川俣町山木屋字小塚山9-1	024-563-2104
同 副部長	船木浩和	北信中学校	960-0102	福島市鎌田字御仮家20	024-553-5049
研究調査会計部長	佐久間徹	蓬莱中学校	960-8157	福島市蓬莱町五丁目14-1	024-548-5670
同 副部長	工藤ひろみ	野田中学校	960-8057	福島市笹木野字市街道28-1	024-531-0031